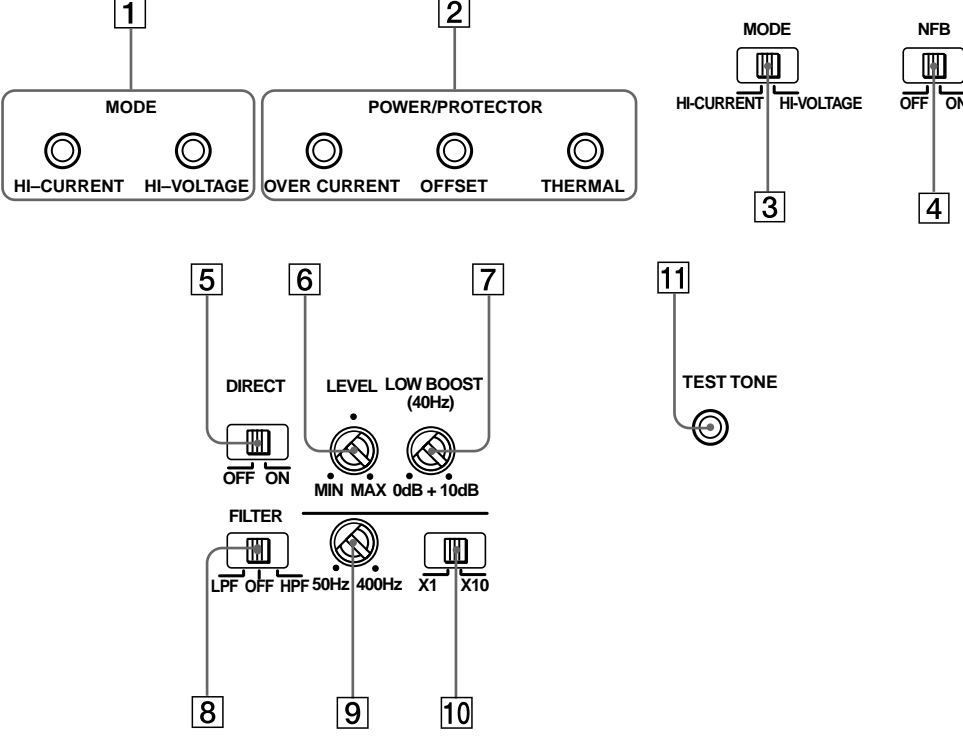


主な特長

- 最大出力180 W×4の余裕あるパワー(4Ω負荷)
- 最大出力600W×2のハイパワーが得られる2chアンプ(ブリッジ接続)としても使用可能
- デジタルソースに対応する広いダイナミックレンジ、低ひずみ率(0.005%、NFB ON)
- アンプ内部の温度上昇やスピーカー保護のための保護回路内蔵
- 安定した電源を供給する高効率パルス電源[※]を採用
- フィルターおよびロープースト回路をパスし、より高音質が楽しめるソースダイレクトスイッチを搭載
- 幅広い音域に対応する可変型フィルターを採用(×1/×10スイッチ)
- カットオフ周波数連続可変ローパスフィルター、ハイパスフィルターおよびロープースト回路を内蔵
- ハイカレントモード(0.5～2Ω)とハイボルテージモード(2～8Ω)の切り換えスイッチを搭載
- NFB(ネガティブフィードバック)オン/オフ回路搭載
- 電圧増幅段用独立電源搭載

[※] パルス電源
DC12Vのバッテリー電源を半導体スイッチによって高速パルスに変換し、それをパルストランスで昇圧、さらに◎◎電源にふり分けたあと再び直流(DC)に戻すコンバーターのことです。小型軽量で、低出力インピーダンスを有する特性をもっています。

各部の名称と働き



- モードインジケータ**
ハイカレント(HI-CURRENT)モードかハイボルテージ(HI-VOLTAGE)モードかを表示します。
- POWER/PROTECTOR(電源/保護回路)インジケータ**
オーバーカレント :
本機の動作中、緑色に点灯します。スピーカー端子がショート(短絡)しているときや異常に大きな音が入ったときにアンパー(橙色)に変わります。
・OFFSET :
本機の動作中、緑色に点灯します。入出力端子(スピーカー端子もしくはピンジャック)に異常電圧が生じたときにアンパー(橙色)に変わります。
・THERMAL :
本機の動作中、緑色に点灯します。アンプ内部の温度が異常に高くなったときにアンパー(橙色)に変わります。ハイカレントモードにすると発熱を抑えることができます。
- ハイカレント/ハイボルテージモード切り換えスイッチ**
・HI-CURRENTモード :
スピーカーのインピーダンスがチャンネルあたり1Ω(または0.5Ω)のときに設定します。スピーカーを並列接続することでパワフルなサウンドをお楽しみいただけます。
・HI-VOLTAGEモード :
スピーカーのインピーダンスがチャンネルあたり4Ω(または2Ω)のときに設定します。ダイナミックレンジの広い抜けの良い音質でお楽しみいただけます。
- NFB切り換えスイッチ**
ONにすると、NFB回路が働き、アンプにより発生する音のひずみを低減します。

ちょっと一言
NFB回路はアンプにより発生する静特性のひずみを低減する効果があるものの、スピーカーが発生する逆起電力による音の濁りの影響を受けます。濁りのない澄んだ音で再生するためには、NFBスイッチをOFFにしてください。

- DIRECTスイッチ**
ONにするとローパスフィルター、ハイパスフィルターおよびロープースト回路を通さなくなります。
ちょっと一言
HPF/LPFをご使用にならない場合は、DIRECTスイッチをONにした方がより良い音質でお聞きいただけます。
- LEVELつまみ**
他社のカーオーディオなどを接続する場合、このつまみで入力レベルを調節します。入力レベルが小さい場合はMAXの方向に、大きい場合はMINの方向につまみを回してください。
ノイズを少なくしたい場合には、レベルつまみ(ゲイン)をMINの方向に回し、カーオーディオのボリュームを大きくしてください。
- LOW BOOSTつまみ (図1参照)**
低域の出力レベルを調整することができます。40Hz付近の周波数の音を最大10dBまで増幅します。
- FILTER選択スイッチ**
LPF側にするとローパス(低音域通過)フィルターがかかり、HPF側にするとハイパス(高音域通過)フィルターがかかります。
DIRECTスイッチをONにするとフィルターはかかりません。
- カットオフ周波数設定つまみ (図2参照)**
ローパスまたはハイパスフィルターをかけた場合のカットオフ周波数(50～400Hz)を設定します。
- ×1/×10切り換えスイッチ (図2参照)**
×10にすると、[9]で設定したカットオフ周波数(50～400Hz)を10倍(500Hz～4kHz)にします。
- TEST TONEボタン**
ボタンを押すと内蔵している発振器が作動しシステムの状態がチェックできます。ボタンを押して音が聞こえれば正常です。

ご注意

設置上のご注意

- 本機は12ボルトマイナスアース車専用です。大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車など、24ボルト車では使えません。
- 次のような場所への取り付けはお避けください。
 - 直射日光が当たる場所、ヒーターの熱風を直接受ける場所など、温度が極端に高いところ
 - 雨が吹き込んだり、水がかかったりする場所や湿気の多いところ
 - ほこりの多いところ
- ヒートシンク面を上にして取り付けてください。ヒートシンクの上にマットやカーベットをかけないでください。
- 冷却ファンをふさがないように取り付けてください。
- 本機にはDC-DCコンバーターを使用していますので、ラジオやアンテナの近くに取付けると、ラジオやテレビ放送の受信に障害をおよぼすことがあります。なるべく離れた位置に設置してください。
- 運転の妨げにならない場所で、同乗者に危険がおよばないところを選んで取り付けてください。
- 取り付けと接続が終わったら、ブレーキランプやライト、ホーン、ウインカーなどすべての電装品が正しく動作することを必ず確認してください。

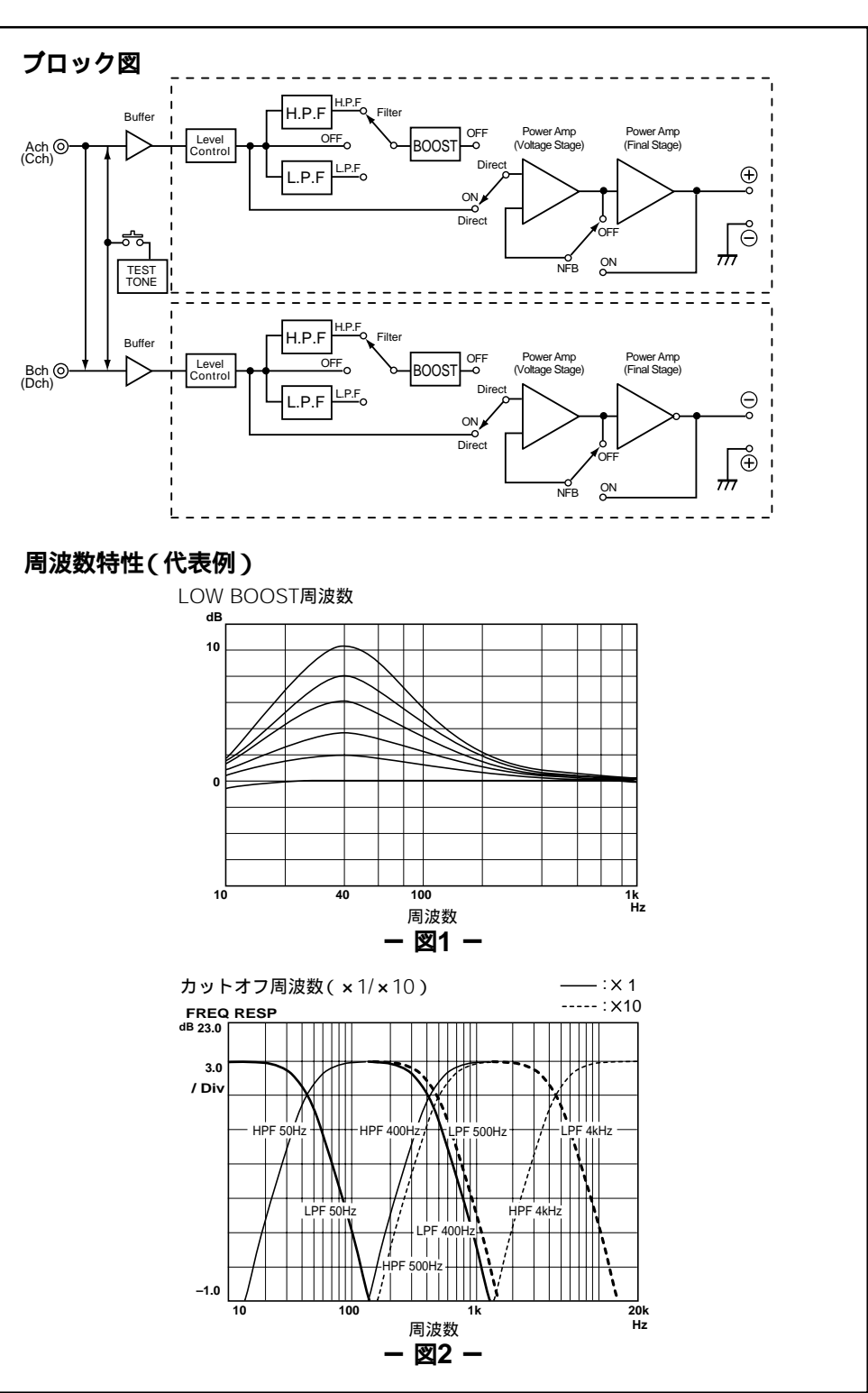
使用上のご注意

- 窓を開めきった自動車を直射日光下に放置すると、車内は相当な高温になります。このようなときは、車内の温度を下げてからご使用ください。
- 次のような場合には、出力トランジスタやスピーカーを保護するため、アンプ内部の保護回路が働き、POWER/PROTECTORインジケータの色が緑から橙に変わり、スピーカーから音が聞こえなくなります。
 - アンプ内部の温度が異常に高くなった場合
 - 異常が発生してDC電圧が発生した場合
 - 出力端子がショートした場合
- このような場合には、すぐに接続してある機器の電源を切り、異常の原因をお調べください。温度上昇が原因と考えられる場合は、しばらく放置して本機の温度を下げてからお使いください。
- 弱ったバッテリーで使用しないでください。本機の性能は電源の状況に左右されるため、十分に性能を発揮できません。
- 安全のため、運転中は車外の音が十分聞こえる程度の音量でご使用ください。

ヒューズの取り換えかた

ショートしたときや、本機に故障があるときは、ヒューズが切れ、本機に過大電流が流れることを防ぎます。ヒューズが切れた場合は、電源コード、アースコードの接続を再確認してからヒューズを交換してください。交換したあとすぐ切れる場合は、お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

- ご注意**
- 指定のアンペア数のヒューズ以外はお使いにならないでください。故障の原因になります。
 - ヒューズは4本全てを使用していないと、十分な性能を発揮できなかったり、電源が立ち上がらない場合があります。



警告 安全のために

警告表示の意味 取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。	
	この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。
	この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり自動車に損害を与えたりすることがあります。
<div> <div>注意を促す記号</div> <div> 火災 感電 </div> </div> <div> <div>行為を禁止する記号</div> <div> 禁止 分解禁止 </div> </div>	

	火災	感電	下記の注意を守らないと 火災・感電 により 死亡や大けが の原因となります。
--	----	----	--

本機はDC12Vマイナスアース車専用です

本機に付属の電源コードを、大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車など、24V車で使用すると火災などの原因となります。

運転操作や車体の可動部を妨げないように取り付け

運転の妨げになる場所、車体の可動部の妨げになる場所に取り付けや配線をする、事故や感電、火災の原因となります。

- ネジやシートレールなどの可動部にコード類をはさみ込まない。
- コード類はまとめる。
- ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどが正しく操作できることを確認する。

-
-

取り付け、接続作業をするときには、必ずイグニッションキーをOFFにするが、キーを抜いておく

イグニッションキーをONにしたまま作業をする、バッテリーあがりや、ショートによりヒューズ飛びや発煙などの危険があります。

-
-

ステアリングやブレーキ系統、タンクなどにある車の性能を維持するための部品を使わない

車体のボルトやナットを利用するとき、ステアリングやブレーキ系統、タンクなどの部品を使うと、制動不能や火災の原因となります。

注意 下記の注意を守らないとけがをしたり自動車に損害を与えたりすることがあります。

付属の部品で正しく取り付ける

他の部品を使うと、機器の内部を傷つける、しっかり固定できないなどで、火災やけがの原因となることがあります。

安定した場所に取り付ける

振動の多いところや、天井などに取付けると、製品が動く、落ちるなどにより、事故やけがの原因となることがあります。

-
-

雨、水がかかる場所、湿気、ほこりの多い場所には取り付けない

上記のような場所に取り付けると、火災や感電の原因となります。

パイプ類、タンク、電気配線などを傷つけない

火災の原因となります。車体に穴を開けて取り付けるときは、パイプ類、タンク電気配線などの位置を確認してください。

-
-

分解や改造をしない

火災や感電、事故の原因となります。電源リード線の被覆を切って、他の機器の電源を取ると、リード線の電流容量を超えてしまいます。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。

-
-

規定容量のヒューズを使う

ヒューズを交換するときは、必ず電源コードのヒューズケースまたは本体に記された規定容量のアンペア数のものをお使いください。規定容量を超えるヒューズを使うと、火災の原因となります。

-
-

SONY

3-867-641-01 (2)

ステレオパワーアンプ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

- 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

<p>取り付けはお買い上げ店に依頼する</p> <p>本機の取り付けは車種や年式により異なり、専門知識が必要です。万一、ご自分で取り付けるときは、この取扱説明書に従って、正しく取り付けください。正しい取り付けをしないと、火災や感電または自動車の損傷の原因となります。</p>

XM-7547

Sony Corporation ©1999 Printed in Japan

主な仕様

回路方式	Pure Direct Drive SEPP回路 パルス電源
入力コネクタ 出力コネクタ 適合インピーダンス	RCAピンジャック スピーカー端子 0.5*～8Ω(ステレオ) 1*～8Ω(ブリッジ接続) *ハイカレントモード時
最大出力(ハイカレント/ハイボルテージ)	90/180 W×4(4Ω負荷) 180/300 W×4(2Ω負荷) 90/180 W×2＋360/600 W×1(4Ω負荷) 360/600 W×2(4Ω負荷)
定格出力(14.4 V、20Hz～20kHz、NFB ON)	ハイカレント/ハイボルテージ 37.5/75 W×4(0.04%THD、4Ω負荷) 75/150 W×4(0.1%THD、2Ω負荷) 150/300 W×2(0.1%THD、4Ω負荷) 150W×4(0.3%THD、1Ω負荷) 180W×4(0.3%THD、0.5Ω負荷) 37.5W×2＋150W(0.1%THD、4Ω負荷) 75W×2＋300W(0.3%THD、2Ω負荷) 300W×2(0.1%THD、2Ω負荷) 360W×2(0.3%THD、1Ω負荷)
周波数特性	5Hz～100kHz(±3dB)
高調波ひずみ率	0.005%以下(1kHz、4Ω負荷、NFB ON)
入力感度	0.2～4・0V
ハイパスフィルター(×1/×10)	50～400Hz/500～4kHz、～12dB/oct
ローパスフィルター(×1/×10)	50～400Hz/500～4kHz、～12dB/oct
ロープースト	0～10dB(40Hz)
電源	DC12Vカーバッテリー(マイナスアース)
電源電圧	10.5～16V
消費電流	45 A(4Ω、定格出力、ハイボルテージモード) 110 A(1Ω、定格出力、ハイカレントモード)
リモート消費電流	1.5 mA(リモート入力)
外形寸法	約 532×83.5×260 mm (303 mm カバ-付き) (幅/高さ/奥行き) 約 8.0 kg(付属品含まず)
質量	
付属品	取り付けビス(4)、保護カバー(1)、六角レンチ(3 mm×1)、取扱説明書(1)、ソニーご相談窓口のご案内(1)、保証書(1)
別売アクセサリー	電源コード RC-46 RCAピンコード RC-64(2m) RC-65(5m) スピーカーコード RC-86

<div> <div>ハイカレント</div> <div> </div> </div>	
---	--

周波数特性

ロープースト

電源電圧

消費電流

リモート消費電流

外形寸法

質量

<div> <div>別売アクセサリー</div> <div> </div> </div>	
---	--

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります

<div> <div>ソニー株式会社</div> <div> </div> </div>	
<div> <div>お問い合わせはお客様ご相談センターへ</div> <div> </div> </div>	
<div> <div>●ナビダイヤル</div> <div> </div> </div>	
<div> <div>●携帯電話・PHSのご利用は…</div> <div> </div> </div>	
<div> <div>●Fax</div> <div> </div> </div>	
<div> <div>受付時間:月～金 9:00～20:00、土・日・祝日 9:00～17:00</div> <div> </div> </div>	

取り付け

取り付ける前に

- 本機は、トランクルームに水平に取り付けてください。
- 本機を取り付けるには、十分な厚み（15mm以上）と強度をもつ取り付け板が必要です。
- カーベットの下は放熱効果が著しく減少しますのでお避けてください。

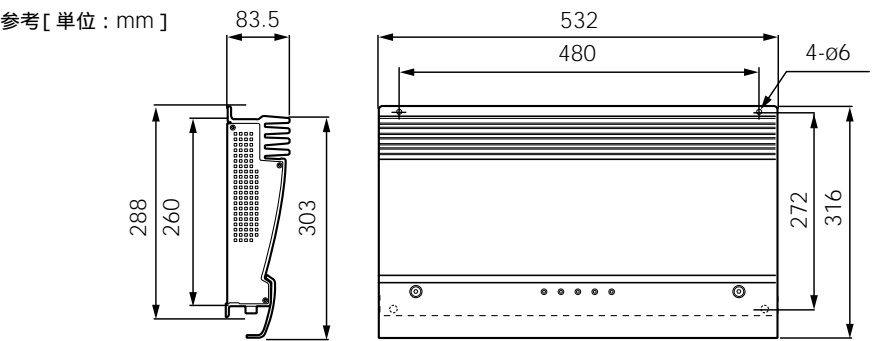
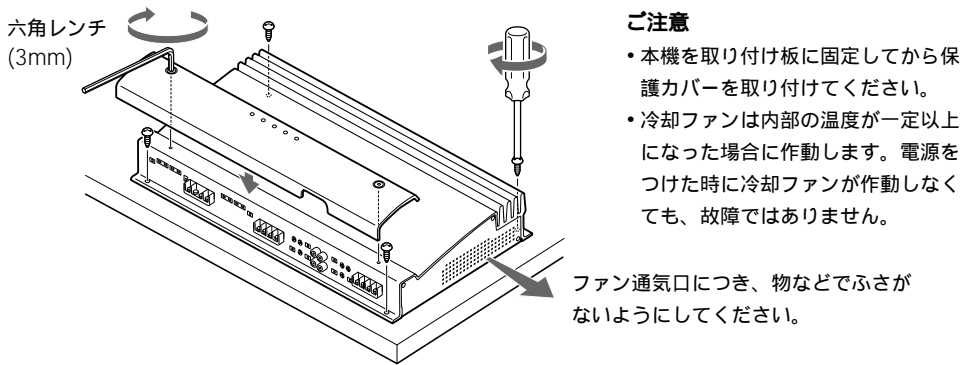
ご自分での取付け、接続が難しいときは、お買い上げ店、またはカーディーラーにご相談ください。

取り付けかた

十分な厚み（15mm以上）と強度をもつ取り付け板をご用意ください。
本機を取り付け板にあて取り付け位置を決め、穴の位置に印をつけます。次に、印をつけたところに直径3mm以内の穴をあけ、付属のビスを使って本機を取り付け板に固定します。

保護カバーの取り付け

各つまみやスイッチの設定、各コードの接続が完了したら、図のように付属の六角レンチで保護カバーを取り付けてください。



故障かな？と思ったら

症状	原因(処置)
POWER/PROTECTOR インジケーターが点灯しない。	ヒューズが切れている。→ ヒューズを交換する。 アースコードが接続されていない。 → 車体の金属部にしっかり接続する。 <ul style="list-style-type: none">• 本機のリモート端子への入力電圧が発生していない(または低い)。• 接続しているカーオーディオの電源が入っていない。 → 電源を入れる。 バッテリーの電圧が適切であるか(10.5～16V)確認する。 電源端子への配線が全て完了していない。 → +12V(2本)/GND端子全てへの配線を行う。
OVER CURRENT インジケーターが橙色に点灯する。	スピーカー出力がショートしている。 → ショートの原因を取り除く。
OFFSET インジケーターが橙色に点灯する。	<ul style="list-style-type: none">• 電源を切り、スピーカーコードおよびアースコードがきちんと接続されているか確かめる。• 接続しているカーオーディオのグランドが浮いている。
THERMAL インジケーターが橙色に点灯する。	<ul style="list-style-type: none">• 適合インピーダンスのスピーカーを使用する。• 風通しの良い場所へ移設する。
オルタネーター の雑音が入る。	電源コードがRCAピンコードに近い。→ RCAピンコードから離す。 ピンコードが車両ハーネスに近い。→ 離して配線する。 アースが不十分である。→ 車体の金属部にしっかり接続する。 スピーカーの端子が車体に接触している。→ 車体から離す。
HPF、LPF、LOW-BOOST が効かない。	DIRECTスイッチが「ON」になっている。
音が小さい。	LEVELつまみが「MIN」になっている。
音がかもる。	FILTER選択スイッチが「LPF」になっている。
音が出ない。	各選択スイッチが完全に切り替わっていない。
テストトーンが鳴らない。	配線が正しく行われていない。→ 再度接続し直す。

以上の処置を行っても効果が見られないときは、接続に問題があるか、故障と考えられます。お買い上げ店またはお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

接続

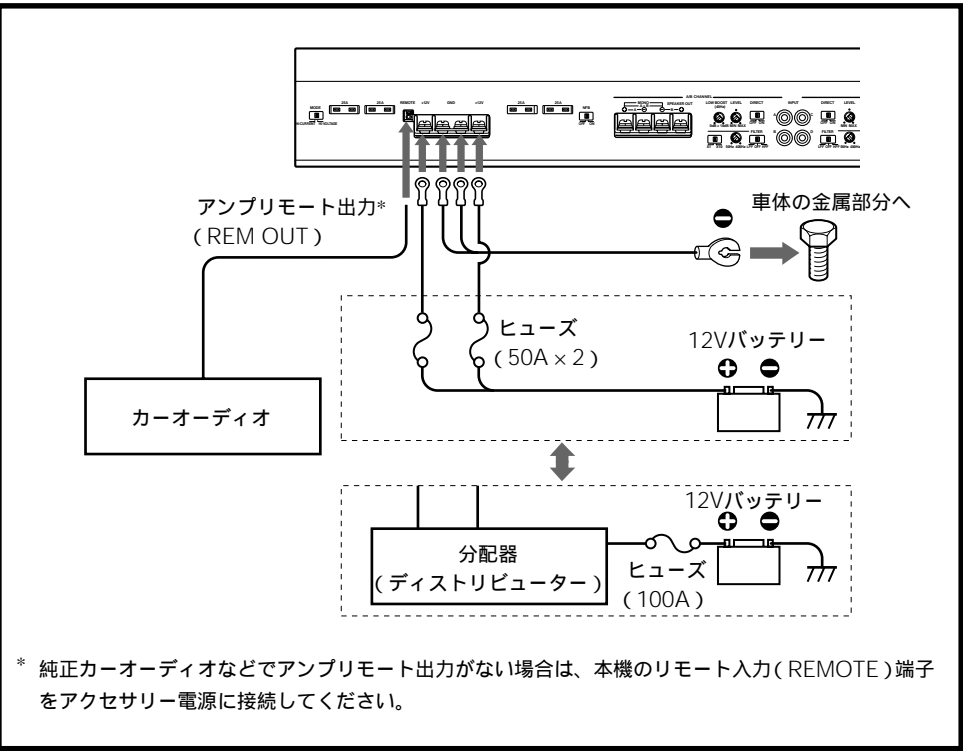
接続する前に

- この取扱説明書(取り付けと接続)に記載されている取り付け、接続先の機器は、全て別売り品(市販品)です。(付属品は除きます。)
- 作業中のショート事故防止のため、本機の電源コードの接続は、必ずイグニッションキーをOFFにして行ってください。
- 電源コードは必ず最後に接続してください。
- 入出力コードと電源コードを近づけて配線するとノイズが出ることがありますので、できるだけ離して配線してください。
- 本機はハイパワーアンプのため、車に既設のスピーカーコードを使うと性能が十分に発揮されないことがあります。
- スピーカーの○側を車のシャーシなどに接続したり、スピーカーの○側どうしを接続したりすると故障の原因になります。
- 十分な許容入力待つスピーカーをお使いください。このアンプは大出力が得られますので、許容入力の小さいスピーカーを使用すると、アンプの性能が十分に発揮されないばかりでなく、スピーカーを破損することがあります。
- 適合インピーダンスのスピーカーをお使いください。
ハイカレントモード 0.5～2Ω(ブリッジ接続時1～4Ω)
ハイボルテージモード 2～8Ω(ブリッジ接続時4～8Ω)
- 本機のスピーカー端子にアクティブスピーカー(アンプ内蔵のスピーカー)を接続しないでください。スピーカーを破損する恐れがあります。

下図のように、コードを接続してください。



電源コードの接続



ご注意

- 電源コードはすべての接続を済ませてから、一番最後に接続してください。
- パワーアンプのアースコードは車の金属部分に確実に接続してください。確実に接続しないと、故障の原因になることがあります。
- カーオーディオのリモート出力コードを本機のリモート入力 (REMOTE) に接続してください。カーオーディオにアンプリモート出力がない場合は、車のアクセサリ電源と本機のリモート入力 (REMOTE) 端子を接続してください。
- 車のバッテリーから直接電源をとる(車のバッテリーから直接、本機の電源端子(+12V)端子に配線する場合、使用する配線コードは太さ6ゲージ(AWG-6、断面積13 mm²)以上のコードを使用し、可能なかぎりバッテリーに近い位置に必ずヒューズ(100A)を配置してください。
- 別売りの電源コードRC-46をご使用になるときは、そちらの説明書をご覧ください。

インプット接続

A ラインインプット接続(スピーカーの接続**1**、**2**または**3**の場合)

B ラインインプット接続(スピーカーの接続**4**の場合)

ご注意

カーオーディオのラインアウトはA (MONO) / C (MONO) 入力端子につないでください。

スピーカー接続

1 4スピーカーシステム(インプット接続**A**の場合)

各スイッチおよびつまみの設定は「各部の名称と働き」をご覧ください。

*ハイカレント/ハイボルテージモード

2 3スピーカーシステム(インプット接続**A**の場合)

各スイッチおよびつまみの設定は「各部の名称と働き」をご覧ください。

*ハイカレント/ハイボルテージモード

フルレンジスピーカー (0.5～2Ω/2～8Ω*)

サブウーファー (1～4Ω/4～8Ω*)

ご注意

この接続では、サブウーファースの音量をカーオーディオのフェーダーで調節することができます。

3 2ウェイシステム(インプット接続**A**の場合)

各スイッチおよびつまみの設定は「各部の名称と働き」をご覧ください。

*ハイカレント/ハイボルテージモード

フルレンジスピーカー (0.5～2Ω/2～8Ω*)

サブウーファー (0.5～2Ω/2～8Ω*)

ご注意

この接続では、サブウーファースの音量をカーオーディオのフェーダーで調節することができます。

4 2スピーカーシステム(インプット接続**B**の場合)

各スイッチおよびつまみの設定は「各部の名称と働き」をご覧ください。

*ハイカレント/ハイボルテージモード

左スピーカー (1～4Ω/4～8Ω*)

右スピーカー (1～4Ω/4～8Ω*)